

まどか保育園 事業報告書 (令和4年度)

社会福祉法人 まどか保育園

1 当該年度において当保育園へ入所された乳幼児は、年度当初定員80名に対し61名。年度途中で入退所があり、年度末には71名であった。これら乳幼児に対して、それぞれの家庭や地域社会との連携を密にして、国が示す子ども子育て支援法、保育指針、園で策定した保育所運営規程等に基づき策定した保育の計画（理念・方針・指導計画等）に沿った適切な保育を、全職員が協力して実施に当たった。

2 家庭や地域社会との連携について

(1) 園と家族との連携を密にするため、「入園のしおり」「園だより」「保健だより」「給食だより」等を発行して、保育に対する各家庭の理解と協力を求めるとともに、園児の登降園時の送迎等の際にも、さまざまな状況等を密接に連絡し合うよう努めた。

(2) うんどう会、おゆうぎ会、保育参観等の行事をとおして保護者に保育活動の状況を公開した。規模・日程を考慮し、感染症拡大防止対策を講じながら行った。

(3) 園児と地域老人や異年齢児との交流親和を図るための各種行事を計画し行った。

(4) 園児の情操を高め、また、季節感を演出するため、感染症拡大防止対策を講じながら、七夕まつり、縁日、豆まき、ひなまつり、餅つき等の行事を行った。家庭や地域社会へ、ホームページやたより等で情報発信し報告した。

3 保育活動の実践について

保育の計画に沿って、それぞれの園児の発育発達状況に留意し、保育者の愛情と知性と技術とが個々に充分向けられるよう配慮しながら、保育活動を実施した。園児が自発的に取り組めるような環境設定に留意するとともに、音楽的豊かさや運動能力を発達助長する遊びや活動、友達とのつながりを深める遊び、体験学習に基づいた保育をするよう心がけた。

4 給食について

園児の発育発達における重要な部分と位置付け、給食食育の年間計画を立てて進めた。調理では、栄養バランス及び季節感のある給食を目指し、必要な栄養量の確保、旬の食材や行事食の取り入れ、嗜好を生かす等に配慮した。手作りのおやつも週5回を目標に実施した。食育活動では、園内花壇での夏野菜作りや大根人参作り、畑でさつまいもの苗さしから収穫までの栽培活動、カレーやおやつ作り等の調理体験、年長児のプチクッキングをして、食事を

いただくまでの過程を学んだ。衛生管理について毎月の検便を全職員が確実に行うとともに、手洗いの励行、事故防止への配慮を行った。特に新型コロナウイルス感染症に関する対応、アレルギー対応、食中毒等の安全対策では園と家庭との連絡を徹底した。

5 職員研修について

可能な範囲で計画的に園内研修を実施した。園外の各種研修会は開催されたものは積極的に参加した。参加を予定していた研修の中には、感染症拡大の影響等により中止となったものもあった。リモート研修も積極的に活用し、行政・各種団体主催の研修や保育士等キャリアアップ研修を受講し、資質向上に努めた。

6 保健・安全等その他

(1) 嘱託医に依頼して、園児の健康診断、歯科健診を年各2回実施した。未受診の園児についても後日受診し、全園児について健康状態の把握を行った。

(2) 専門業者に依頼して、園児の尿検査を年2回実施し、全園児について健康状態の把握を行った。

(3) 人吉予防医療センター、公立多良木病院総合健診センター「コスモ」に依頼して、職員の健康診断を実施、労務管理を適切にしっかり行う等、健康安全等に配慮した。

(4) 防災計画、災害対策マニュアル、防災(避難)訓練計画に基づき、毎月防災教育避難訓練を実施した。毎年行う上球磨消防署に依頼しての、火災避難訓練、消火訓練は実施できなかった。施設立ち入り検査を受け、指摘指導はなかった。日頃より施設設備の整備をし、担当者による点検も十分行った。定期的に地震訓練、防犯訓練、台風水害・竜巻突風の避難訓練を行った。

(5) 交通安全指導計画に基づき、交通安全の日(毎月20日)を設け、交通安全指導を実施した。例年園児の登降園時に保護者による「交通安全まどかニコニコクラブ」が街頭指導をしているが、当該年度は中止した。

(5) 保育環境の安全・衛生に留意して、整備や工事、備品取得を行った。

7 その他の保育事業の実施について

障害児保育事業、延長保育事業及び自主事業として一時預かり保育事業を行った。

※ 特に年末は、コロナ感染症拡大の影響で、保育運営中難しい状況にもなりかけたが、行政の指導の下、なんとか全職員・保護者で協力し進められた。

令和4年度 行事实行表

まどか保育園

月 日	行 事 内 容	附 記
4 1	入園・進級式	新入園児も交えて入園・進級式
4 15	ニコニコ遠足	異年令児交流
4 22	園児健康診断	嘱託医検診（内科）
5 10	尿検査	健康管理
5 12	花まつり会	子どもの花まつり会
6 14	園児歯科検診	嘱託医検診（歯科）
6 17	保育参観、懇談会	きく組保護者保育参観 交流
7 6	プール開き	プール遊び開始
7 7	七夕まつり	笹飾りを作り飾る
8 13 ~15	盂蘭盆会	保育は通常通り行う
8 23	まどか縁日	子どものまつり
8 31	プール納め	プール遊び終了
9 2	ばら組のつどい	ばら組 特別な1日を友達・全職員と過ごす
10 1	うんどう会	親子・祖父母・小学生・地域住民 交流
10 13	園児健康診断	嘱託医検診（内科）
10 14	5歳児むし歯予防教室	ゆり組 歯科衛生士によるむし歯予防指導
10 18	秋の遠足	異年令児交流
10 27	芋掘り	苗さしから育てた芋の収穫
11 1	尿検査	健康管理
11 2	こどもSDGsの日	広場などを掃除する
11 11	園児歯科検診	嘱託医検診（歯科）
11 18	報恩講まいり	ご本堂でお参りをしてお話を聞く
11 21	職場訪問	ばら組代表 お世話になっている職場を訪問
12 10	おゆうぎ会	遊戯、合奏などを披露する
12 28	保育納め	保育納め会をする
1 4	保育始め	
2 3	節分	皆で豆まきをする
2 25	保育参観、マラソン大会	親子・祖父母・地域住民 交流
3 3	ひなまつり会	ひな壇を飾りひなまつり会をする
3 4	卒園記念親子活動	科学ワークショップ ばら組親子 交流

3 14	お別れ会	ばら組とお別れ会
3 16	お礼まいり	ばら組 おまいりをしてお礼をする
3 18	卒園式	ばら組卒園式
3 27	お別れ遠足	異年令児交流
3 29	もちつき	異年令児 小学生 交流
3 31	修了式	在園児修了式

その他、毎月 御堂礼拝・誕生会・身体測定・交通安全指導・防災(避難)訓練・食育指導、定期的に英語教室・ピカピカデー・園内研修を実施した。

まどか学童クラブ 事業報告書 (令和4年度)

社会福祉法人 まどか保育園

理念 生かされていることに気づき支えあう
一人ひとり健やかに歩む
興味創造を大きく広く展開できるあそび力を高める

1 放課後児童健全育成事業を始め、3年目の事業であった。児童へ適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な心身の発達をはかることを指導目的とした。福祉の専門性を有し、家庭との緊密な連携の下に、児童の状況、発達過程を踏まえ、保育所における環境をとおして、養護及び教育を一体的に行った。経験や反省をもとに、事業所全体がしっかりとした自信と計画を持ち、確実適切なクラブ活動の実施ができたと考える。職員の責任意識が高く、またその中、放課後児童支援員資格取得者もさらに増えた。慢心せず、利用者の支援につながる運営を進める。

2 当クラブへの入所児童は、年度当初定員(40名以下)に対し27名。年度途中で入退所があり、年度末は23名であった。家庭の事情や長期休暇等理由による中途利用希望にも、できる限り柔軟に対応し、利用数変動の中であっても、事務管理・支援ともに専門性を発揮し運営を進めた。

児童に対して、各家庭や地域社会との連携を密にして、児童福祉法や園で策定した運営規程等に基づき、適切なクラブ運営を、全支援員が協力して実施した。

3 家庭や地域社会との連携について

「学童クラブのしおり」「学童クラブだより」「保健だより」「給食だより」等を発行して、クラブに対する各家庭の理解と協力を求めるとともに、児童の降園時の迎え等の際にも、さまざまな状況等を密接に連絡し合うよう努めた。

利用者専用ホームページや不特定へのホームページ等をとおして、家庭や地域社会に活動の状況を公開した。

園児との交流親和を図るため、感染予防対策を徹底しながら、園の各種行事に参加した。

4 クラブ活動の実践について

計画に沿って、それぞれの児童の発育発達状況に留意し、支援員の愛情と知性と技術とが個々に充分向けられるよう配慮しながら、クラブ活動を実施した。児童が自発的に取り組めるような環境設定に留意するとともに、学習、音楽的豊かさや運動能力を発達助長する遊びや活動、友達とのつながりを深める遊び、体験学習に基づいた活動をするよう心がけた。学年幅増と利用者増により、児童が日々楽しみに登園し、昨年度よりさらに楽しくさまざまな活動をできたことが嬉しいことであった。

5 職員研修について

外部への実技等研修参加は難しくできなかった。支援員1人が資質向上のため、放課後児童支援員取得研修を受講し、資格取得者は4名となった。

支援員は全員保育の経験もあり、あらゆる経験や実践反省をもととして、話し合いや研修を実施し、資質向上に努めた。

園内での防災計画会議や防火対策検討会を実施し、防災や災害に対する知識習得、対処法確認、連携意思統一を行った。

6 保健・安全等その他

防災計画、災害対策マニュアル、保健衛生対策マニュアル、事故防止及び事故発生時対応マニュアル、防災(避難)訓練計画に基づき、災害訓練を実施した。児童、支援員の知識、技術、意識向上につながった。

施設環境の安全・衛生に留意して、整備や備品取得を行った。